



この便りは、中央区幼保小連携推進協議会にかかわった皆さんが子どもたちの健やかな成長とそして、円滑な幼保小の連携ができるようにと願い発行されたものです。ご愛読ください。

第2回(10/19日) 中央区幼保小連携推進協議会の報告

第2回目も参集方式での開催となり、各施設から1名ずつの制限がある中、幼児教育施設 43 園から 45 名、小学校 15 校から 16 名と、第1回と同程度の計 61 名もの参加がありました。今回は、今年度の統一したテーマ「学びをつなぐ幼保小連携・接続」のもと、知る→学ぶ→つなぐのうち、学ぶを目的に「連携・接続に関わる研修」を実施しました。以下、第2回目の様子をお知らせします。

【研修】 幼児教育と小学校教育のつながりを理解しよう

「遊び」は幼児期にふさわしい学び～幼児期の終わりまでに育てほしい「10の姿」～ 「遊び」における経験や体験を通して幼児が何を学んでいるか、「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」としてどのような姿が見られるか、そして それらは小学校以降の教育とどうつながるのか、について一枚の遊びの場面（以下中央幼の写真）をもとに幼保小の先生たちと一緒に考えてみました。

【5歳児 7月頃 園庭で泥を使ってのチョコレートづくり!】



どんな会話を
遊んでいるのかな？

- ・「どんどん水を入れてトロトロになってきた!」
- ・「食べごろかなあ?」
- ・「たくさんできたらお店屋さんごっこもできるかも?」
- ・「固まったらもっと凄いのができそう」

- ・ 5歳児はこれまでの経験から、偶然できた事象も楽しみながら友達と考えを出し合って遊んでいるのかも…。



- ・「重いから手伝って!」
- ・「私にもやらせて」「順番に掘ろう」

- ・ 役割を分担したり、力を合わせたりもしている。
- ・ 道具も使い分けしているね。

- ・ 自分の気持ちや思いを言葉で伝えようとしている。



子どもたちは何
を学んでいる？

- ・ 水や土の感触を裸足で楽しんでいるね。

- ・「〇〇しよう」と見通しや計画性もあるね。

- ・ 力を合わせようと協働性を発揮したり、順番を待ったりと相手意識もあるのでは。

- ・ やってみたい!を実現しようとする気持ち

遊びには「いくつもの学び」が潜んでいる！ 「10の姿」で考えると……

(各ブロックの発表より抜粋)



アンケートより

～幼児期の学びの芽が小学校の生活や学習につながっていくことを再確認できた!

今回は幼児期の「遊び」をもとに考えた研修でしたが、幼保小ともに子どもの育ちの芽を見取る力が大切であり、“学びや発達がつながっていることを意識していくことの必要性”を感じたという声が多くありました。



- ◇指導の方法は違えど子どもへの思いは幼保小ともに同じであることが分かった。
- ◇一つの遊びが「10の姿」全てに関わっていることが分かり、日々の自信になった!
- ◇遊びの重要性を再確認できた!
- ◇幼保小の先生たちで子どもの見取りを話し合うことで、新たな気付きもあった。連携交流の大切さを感じる。

- ◇教師の関わりの基本は子どものよさや主体性を伸ばすことだと、ともに確認できた。
- ◇遊びや生活での体験を各教科に意図的に生かしていくことが大事。
- ◇遊びを通して子どもに育みたい力が自然と育っていくことを学ぶことができた。
- ◇幼保で学んだことが小学校での学びに確かにつながっていることを実感した。



予告!

第3回 中央区幼保小連携推進協議会 幼保小連絡会

日時：令和5年1月12日(木) 13:30～(予定)

方法：電話またはZoom等を活用した非参集での引継ぎ

※保護者の了解を得たお子さんの情報について引継ぎを行います。

小学校生活のスムーズなスタートがされるよう個々の様子や必要な手立てを共有しましょう!

